

要旨

新型コロナウイルスの変遷

～働き方と就職活動へ与えた影響

現在、世界的に新型コロナの流行が社会問題になっている。その結果として経済だけでなく私たちの生活に多大な影響を及ぼした。そして、その状況下で私たち 2022 年度卒業予定の大学生は就職活動に差し当たる時期であった。就職活動は自分の希望する会社、業種に就けるかどうか今後の人生を設計するにあたり大きく影響を与えるものである。そのプレッシャーから就活生は、どれだけ積み重ねて準備をしても不安を払拭することができない。また、自分だけではなく他の学生とも競い合わなければならないため心理的な影響は測りしれない。その中で新型コロナはどのように影響を与えているのか、心理的な影響、働き方を中心に興味が湧いたため調査したいと考えた。

心理的な影響についての調査方法はアンケート用紙(選択式+自由記述あり)で行い、調査対象者は大東文化大学における 2022 年度卒業予定の男子 53 名、女性 37 名、計 90 名に行った。

働き方の変化や影響についてはインターネットで企業のホームページなどを閲覧したり、コロナ禍前後で職場が変わらない方にインタビューをして調査を行った。

調査の結果としては内定率は全体の約 7 割を占めていた。また、苦勞した・していることについて尋ねた結果、エントリーシートの他にオンラインに関することであったり、インターンという回答が伸びていた。就活生自身に影響の感じ方を尋ねても全体の 8 割以上が多少なりとも影響を感じていると回答している。その中で性別で分けて集計した結果、母数の違いからくるものである可能性もあるため一概には言えないが女性の方が影響を大きく感じていることが数値として現れていた。それらの理由としてはわからないことだらけで不安であったり、オンラインで対面が少ないから等の理由を中心に述べられていた。また、コロナ前後で就職活動をするにあたって重視する部分については社風などではなく、テレワークや予期せぬ事態に対しても対応できるような企業を選ぶということを意識する人が多かった。

働き方に関しては人数を減らしたり、検温、消毒の徹底、換気などをするようになっていた。また、電話やインターネットにも力を入れ、売り上げが落ちないように少しでも顧客の方に安心してきていただけるような取り組みをしていた。

結論として、自身の調査結果ではアンケート規模が小さいこともあるが、数値からは影響が出ていると判断できた。その影響は就職活動自体というより例年通りの就職活動に当てはめることができず、それによる心理的な影響への方が大きく結果として結果に現れ

た。また、その心理的な影響は男性より女性の方に大きく表れていた。企業がこのまま少人数採用であったり、女性の雇用を減らし続けると社会問題に繋がる可能性がある。そうならないためにもコロナの影響に負けずに採用を少しずつでも増やし、男女それぞれの得意分野を生かしていけば社会も企業も就活生も良い方向に進んでいくと私は考える。